

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

平成26年4月22日（火）

3. 調査の対象

泉佐野市立末広小学校 第6学年，全児童
実施児童数（ 99 人）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語及び算数。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、主として知識・技能に関する内容（A問題）と、それらを活用する力などに関する内容（B問題）とする。

ウ 出題形式については、選択式及び短答式に加え、記述式の問題とする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するアンケート調査（以下「児童アンケート調査」という。）を実施する。

(3) 学校の取組みに関する調査

調査対象の児童が在籍する学校を対象に、学校における教育条件の整備状況や指導方法等に関するアンケート調査（以下「学校アンケート調査」という。）を実施する。

平成26年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国とほぼ同じ状況であるが、全国と比べて上位層が少ない。
平均正答率（本校 64.3／泉佐野市 70.3／大阪府 70.7／全国 72.9）

「B区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国とほぼ同じ状況にあるが、全国と比べて上位層がやや少なく下位層がやや多く分布している。
平均正答率（本校 43.5／泉佐野市 51.9／大阪府 52.6／全国 55.5）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語A	特徴がみられた設問
<p>【話すこと・聞くこと】 ○話合いの観点に基づいて情報を関係付けることに課題がある。 7 話合いの記録の仕方として適切なものを選択する。(55.6/72.4)</p> <p>【書くこと】 ○複数の事柄を並列の関係で書くことに課題がある。 6一 「～たり、…たり」とう表現に直して書く。(64.6/74.9) ○仮定の表現として、適切なものを捉えることに課題がある。 6二 文の意味のつながりを捉え、適切なものを選択する。(66.7/83.1)</p>	<p>【読むこと】 ○物語の登場人物の相互関係を捉えることに課題がある。 5 物語の一部に入る適切な人物の名前を書く。(55.6/65.3)</p> <p>【伝統的な言語文化と特質に関する事項】 ○故事成語の意味と使い方を理解することに課題がある。 2一 故事成語の使い方として適切なものを選択する。(五十歩百歩) (43.4/55.8) 2二 故事成語の使い方として適切なものを選択する。(百聞は一見にしかず) (37.4/49.9)</p>

国語B	特徴がみられた設問
<p>【話すこと・聞くこと】 ○立場を明確にして、質問や意見を述べることに課題がある。 1三 大野さん②の発言に対し、手書きの立場から質問か意見を書く。(10.1/28.3)</p> <p>【書くこと】 ○分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらに関係付けながらまとめて書くことに課題がある。 2二 付箋の内容を関係付けて、野口さんのまとめを書く。(15.2/26.9) ○二つの詩を比べて読み、自分の考えを書くことに課題がある。 3三 【詩1】と【詩2】を比べて読んで考えたことを書く。(36.4/48.1)</p>	<p>【読むこと】 ○課題を解決するために、目次や索引を活用して、本を効果的に読むことに課題がある。 2三 疑問を解決するために、目次や索引の中から必要となるページの番号を書く。(45.5/66.0) ○詩の解釈における着眼点の違いを捉えることに課題がある。 3二 【詩2】に対する山田さんの解釈として適切なものを選択する。(30.3/48.5)</p> <p>【伝統的な言語文化と特質に関する事項】 ○二つの詩を比べて読み、自分の考えを書くことに課題がある。 3(2) 【詩2】の表現の特徴として適切なものを選択する。(46.5/59.2)</p>

3 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は好きですか	53.0	59.2	◇	6.2
国語の勉強は大切だと思いますか	88.0	91.8		3.8
国語の授業の内容はよく分かりますか	77.0	80.1		3.1
読書は好きですか	58.0	73.0	○	15.0
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	86.0	87.4		1.4
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	49.0	61.4	○	12.4
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか	53.0	58.5	◇	5.5
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか	54.0	70.7	○	16.7
国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめごとに内容を理解しながら読んでいますか	70.0	75.8	◇	5.8
今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたか、どのように解答しましたか	97.0	97.4		0.4
調査問題の解答時間は十分でしたか（国語A）	75.0	85.5	○	10.5
調査問題の解答時間は十分でしたか（国語B）	46.0	50.6		4.6

- 「読書は好きですか」という項目では、全国に比べ15.0%も低位にあり、児童の読書離れが危惧される。しかし、実際の学校図書館の活用状況を見てみると各学年とも比較的よく利用し、児童一人当たりの本の貸出冊数も極端に少ないというわけではない。58%という数字の捉え方の問題はありますが、全国との差が15.0%もあるという事実は重く受け止める必要がある。読書量が読解力や語彙力、表現力、思考力などと深く結び付き、国語の力全般を押し上げる大きなフレームを形作っていることを考えると、読書好きな児童を一人でも多く育てるための取り組みや工夫が必要である。
- 「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」という項目では、全国と比べ12.4%も低位にあり、「している」と答えた児童は50%を切っている。読むことは読めても、目的に応じて読み取ったり、読み取ったことをもとにして自分の考えを話したり、書いたりできないということは、結局、読みの理解が表面的で、内容の吟味が十分にできていないということである。着実な「読解力」の育成が課題である。
- 「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか」という項目では、全国との差が16.7%と最も大きかった。「自分の考え」を書くこと自体に大きな課題を抱えている中で、「考えの理由が分かるように気を付けて書く」ということは、本校児童にとってかなり高度で難しい作業と言える。引き続き、考えや理由をセットにして発表や記述させる学習活動を日常の授業の中で取り入れていく必要がある。

平成26年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- 平均正答数の全体的な分布状況は全国とほぼ同じであるが、全国と比べ上位層がやや少なく、中位層がやや多く分布している。

平均正答率（本校 69.5 / 泉佐野市 75.9 / 大阪府 77.3 / 全国 78.1）

「B区分問題」

- 平均正答数の全体的な分布状況は全国とほぼ同じであるが、全国に比べるとやや低位層に偏りがある。

平均正答率（本校 47.0 / 泉佐野市 55.6 / 大阪府 56.3 / 全国 58.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率 / 全国正答率）

算数A	特徴がみられた設問
<p>【数と計算】</p> <p>○繰り下がりのある加法の計算をすることは概ねできている。</p> <p>1 (1) $46 + 57$ を計算する。 (100.0/96.9)</p> <p>○被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることは概ねできている。</p> <p>1 (2) 903×6 を計算する。 (92.9/92.8)</p> <p>○割合が1より大きい場合、比較量の求め方が（基準量）×（割合）になることの理解に課題がある。</p> <p>2 (1) 示された図を基に、赤いテープの長さが白いテープの長さ（80cm）の1.2倍に当たるときの赤いテープの長さを求める式を選ぶ。 (58.6/71.9)</p> <p>【量と測定】</p> <p>○単位量当たりの大きさの求め方の理解に課題がある。</p> <p>4 (2) 8 m^2 に16人いるAの部屋について、1 m^2 当たり的人数を求める式を書く。 (45.5/60.8)</p>	<p>【図形】</p> <p>○円周の長さを、直径の長さを用いて求めることに課題がある。</p> <p>5 (1) 直径6cmの円の円周を求める式と答えを書く。 (64.6/83.9)</p> <p>○立体図形とその見取図の辺や面のつながりや位置関係についての理解に課題がある。</p> <p>7 縦5cm、横1.1cm、高さ4cmの直方体の面②になる四角形を選ぶ。 (49.5/69.4)</p> <p>【数量関係】</p> <p>○四則の混合した式の意味についての理解に課題がある。</p> <p>8 答えが $100 - 20 \times 4$ の式で求められる問題を選ぶ。 (68.7/81.0)</p>

算数B	特徴がみられた設問
<p>【数と計算】</p> <p>○示された場面から計算の結果の見通しをもち、（2位数）×（1位数）の筆算をすることは概ねできている。</p> <p>1 (1) 示されたかけ算の中で積に同じ数字が並ぶものを選ぶ。 (87.9/94.6)</p> <p>○示された計算のきまりを基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を記述することに課題がある。</p> <p>1 (2) 二人の説明を基に、37×24 の積が888になることを書く。 (37.4/55.2)</p> <p>○10人分の量を基に40人分の量を相対的に捉え、その関係を表している図を選択することに課題がある。</p> <p>3 (2) 40人分のご飯を分けるとき、10人分の目安を正しく表している図を全て選ぶ。 (39.4/56.7)</p>	<p>【量と測定】</p> <p>○最大値に着目して、棒グラフの棒を枠の中に表すことができない理由を記述することに課題がある。</p> <p>2 (2) 1目盛りを 50 cm^2 として学校の水の使用量の表を棒グラフに表すとき、棒が縦20マスの枠の中に入らない月を選び、そのわけを書く。 (48.5/69.1)</p> <p>○示された情報を基に、条件に合う時間を求めることに課題がある。</p> <p>3 (1) 昨年の昼食時間を見直したときに、今年は準備の時間を何分間にすればよいかを書く。 (24.2/38.6)</p> <p>【数量関係】</p> <p>○示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述することに課題がある。</p> <p>5 (3) 妹の身長を基に、妹の使いやすい箸の長さの求め方と答えを書く。 (18.2/33.0)</p>

3 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好きですか	67.0	66.1		0.9
算数の勉強は大切だと思いますか	89.0	92.3		3.3
算数の授業の内容はよく分かりますか	78.0	79.6		1.6
算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか	79.0	77.3		1.7
算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	75.0	78.1		3.1
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	58.0	66.3	◇	8.3
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	91.0	89.0		2.0
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	72.0	79.4	◇	7.4
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	68.0	81.3	○	13.3
算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	75.0	83.4	◇	8.4
調査問題の解答時間は十分でしたか（算数A）	81.0	89.4	◇	8.4
調査問題の解答時間は十分でしたか（算数B）	73.0	76.4		3.4

- 「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」という項目では、「考える」という児童が58.0%で、全国の66.3%と比べ8.3%低位にある。普段の授業で学習したことを自分の日常生活と結び付け、生活の中で活用しようという意識が低い。結果として、このことは児童の学習に対する意欲や関心に影響していると考えられる。
- 「算数の勉強は大切だと思いますか」や「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という項目では、プラス回答がそれぞれ90%前後と高く、全国と比べても大きな差はない。自分にとって「算数の学習は大切であり、学習した内容は将来役に立つ」とほとんどの児童は認識している。
- 「算数の学習は大切だ」と考えている児童が多い反面、「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」や「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」、「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」、「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」といった項目では、全国と比べすべて低位にある。特に、「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」では全国より13.3%も低く、差が大きい。算数は嫌いではないが、より分かりやすくするためのさまざまな努力や工夫をすることについては、あまり積極的に取り組めていない現状がうかがえる。

平成26年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

本校の子どもたちの意識調査を、質問に対して4択（62問）で選ぶものは、選択肢1、2と3、4はそれぞれ同じ傾向と捉える。（例えば、1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない）

また、それ以外の質問（12問）は特徴的な事柄を取り出し、それらを全国と比較している。

下記の表には全国と比較して5%以上差のあるものの中で、特徴的な項目を列挙した。さらに、下線部に関しては10%以上の差のあるものを示している。

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【家庭生活の様子】	<ul style="list-style-type: none"> 朝食や毎日の起床時刻に関しては、いずれも若干下回っているものの、ほぼ全国平均並と言える 毎日の就寝時刻に関しては全国と比べ差が大きく、決まった時刻に寝る習慣が定着していない様子がうかがえる 身の回りで起こっている出来事等に対して関心が低く、これは「新聞を読んでいるか」という項目の数字と関連している 	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>毎日、同じくらいの時刻に寝ている。</u> <62.0/79.2> ○ <u>地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか</u> <51.0/62.9> ○ 新聞を読んでいますか <20.0/27.1>
【家庭学習の様子】	<ul style="list-style-type: none"> 家庭での計画的な学習や予習・復習の習慣については、全国と比べいずれも大きな差がついている。このことは、学力調査の平均正答率が全項目で全国を大きく下回っていることと深く関連していると考えられる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか</u> <41.0/61.0> ○ <u>家で、学校の授業の予習をしていますか</u> <27.0/43.2> ○ <u>家で、学校の授業の復習をしていますか</u> <35.0/54.0>
【学校での学習の様子】	<ul style="list-style-type: none"> 学校の授業において、インターネット等を活用したり、学級の中で友達と話し合ったりする活動が行われてはいるが、全国と比べるとまだ差がある。また、話し合い活動はしても、自分の考えを深めたり、広げたりするところまでは指導が至っていない状況がうかがえる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>5年生までに受けた授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていたと思いますか</u> <61.0/77.3> ○ <u>5年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか</u> <79.0/84.9> ○ <u>学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか</u> <54.0/65.9>

本校の取組み

◎これまでの取組み

昨年度まで、これまでの全国学力・学習状況調査や大阪府学力・学習状況調査の結果から見えてきた本校児童の学力等の課題について、分析結果を整理しながら改善点を探り、対処し取り組んできた。

例えば、全学年を通して、第1限前の8時35分から8時50分の15分間を「かがやきタイム」と位置付け、毎週（火）（水）（金）曜日に国語の漢字や文章の読み取り、言葉のきまり、算数の計算や文章問題など、基礎的・基本的な内容の定着を図るための取り組みを行ってきた。さらに、学校独自の「診断テスト」を毎学期実施し、基礎となる計算については数年間の取り組みで改善も見られる。また、特に理解が困難な児童については、休憩時間や放課後等を利用して個別の指導にも配慮してきている。

また、日常の授業においても、自力解決的な学習指導の活用や「めあて」の提示と「ふりかえり」の活動を重視した授業スタイル（型）の導入など、指導方法の工夫・改善にも取り組んできているところである。特に、昨年度からは児童の思考力を高めるために、ノート指導にも力を入れている。

◎これからの取組み

今回の全国学力・学習状況調査の結果を分析すると、昨年度までの本校の課題が依然として改善されておらず、引き続き、継続して粘り強い学力向上に向けた取り組みが必要であると考えている。

特に、児童質問紙調査の結果から見える本校児童の学習状況におけるさまざまな課題が、なかなか学力の改善に結びついていかない大きな要因の一つとして考えられる。例えば、家庭学習の様子では、「家で、自分で計画を立てて勉強している」という児童は約40%で、全国と比較すると20%も少ない。また、「家で、学校の授業の予習をしている」という児童は約30%で、全国より約16%も少ない。さらに、「家で、学校の授業の復習をしている」という児童は35%で、これについても全国と比べ約20%も低い数字となっている。このように、家庭学習の状況だけを取り上げても、学力の向上を阻害する原因の数々が明確に現れており、早急に改善しなければならない課題である。

これまで本校が学力向上のために取り組んできた授業改善をはじめとする上記のような種々の対策については引き続き継続しつつ、今後は家庭学習の拡充を促進する手立てについても、並行して取り組みを進めていかなければならないと考える。

具体的には、以下の4点のことについて、児童に徹底させるよう家庭と協力し推進していく考えである。

- 1 宿題は、必ず、下校後すぐに取り組ませること。 ⇒ 当日の学習内容の確実な定着をめざす。
- 2 宿題以外、毎日、計画的な自由勉強に取り組ませること。 ⇒ 自主的な学習習慣の醸成をめざす。
※ 目標として、家庭学習の時間＝各学年の宿題＋各学年×10分間（理想は、学年×20分間以上）をめざす
※ 学校のテストやプリント等の活用（反復による学習内容の定着と予習・復習の習慣付けをめざす。）
- 3 家庭における家族の対話を意識的に増やすことに取り組ませること。
⇒ コミュニケーション力の向上とテレビ・ゲーム等の視聴・使用時間の削減をめざす
- 4 本（まんが以外）や新聞等を読む機会を増やし、考えたことをノートに記録したり、短い文章でまとめたりする習慣を付けることに取り組ませること。 ⇒ 思考力・判断力・表現力の向上をめざす。